

石井クリニック だより

第55号

医療法人 葦の会
石井クリニック
発行責任者 野口 英雄
編集責任者 佐藤 潤香
〒361-0037
埼玉県行田市大字下忍1089-1
TEL (048) 555-3519

当院の看護師ハイブリッド化の取り組み

医療法人 葦の会 理事長 石井 義則

厚生労働省の資料(平成24年度)によりますと日本国内で看護資格を持つ人は154万人、年間51万人が新たに看護資格を獲得しているようです。現実的に病院勤務看護師さんは医療設備のハード面や診療報酬で優遇されており、そのため、日本国内での看護師さんの勤務分布状況は、病院は約96万人、診療所は32万人であり、ある意味その条件面の格差が3倍の分布差で表れて、有床診療所での看護スタッフの安定確保が困難な状況があります。

整形外科単科の当院では、そんな現状に手を拱いているだけでなく、法人内の医療・介護部門の他職種スタッフが看護資格を取得することで、看護師数の確保を進めて参りました。いわゆる看護スタッフのハイブリッド化です。ハイブリッドとは異種のを組み合わせたものと定義されます。現在、その内訳は放射線技師1名、柔道整復師2名、健康運動指導士1名、介護士2名、医療事務1名の計7名です。ここで、外来も病棟も手術室も兼任している(看護資格のみ)看護スタッフも「プチハイブリッド」と定義すれば、当院では全員ハイブリッド看護師になります。

医療の高度化という観点から

は、近年専門性を極める認定看護師が推奨されているようですが、膨らみ続ける医療費の抑制にはない観点から、ジェネリック薬品の使用の推進もさることながら、幅広い知識を持つハイブリットやプチハイブリッド看護師の必要性が今後さらに高まっていく必要があると考えます。医師も幅広い知識をもつ総合診療医の育成が推進されており、現在、女子ワールドサッカーが開催中ですが、バックスの攻撃参加は当たり前になってきています。当院での看護スタッフへの取り組みが国内に広がり、医療費抑制の一助になっていくことを期待します。尚、この取り組みに関しましては当院の伊藤院長が今月、山口県で開催される日本臨床整形外科学会で口演の予定です。当院開設以来、17年余にわたり実践してくれた森田看護師さんが無事定年退職を迎えられました。この文面を借りて御礼申し上げます。ご苦勞様でした！

最後にありますが、写真は、6月に学会の開催されたリヨンでのトリックアートです。立体的に見えますが、実は壁一面(平面)に描かれています。



ヨーロッパ整形外科学会@プラハ

野口 英雄

さる5月27日から29日まで、ヨーロッパ整形外科学会(16th EFOR T)がチェコのプラハで開催されました。石井クリニックからは私が口演1題、佐藤先生がポスター2題の発表があり、佐藤先生と二人で東欧まで遠征してきました。EFORTは2013年がイスタンブール、2014年ロンドンと魅力のある各地を廻ります。発表するだけでなく観光にもとても魅力ある学会です。

プラハへは日本から直行便がないため、17時間かけパリ経由で到着しました。公用語はドイツ語に近いチェコ語ですが、プラハではほとんど英語で事足りります。通貨はコルナ(1コルナ=5円)です。ガイドブックにはタクシーで法外な値段を取られるとあり、移動は市営バスと地下鉄を使います。車内アナウンスはチェコ語のため行き先を聞いてもわかりません。路線図を暗記し、電光掲示を睨みながら大いに活用しました。5月下旬で最低9℃、最高20℃、3月下旬の行田くらいの気温です。かつて神聖ローマ帝国の首都であった歴史と威厳のある美しい街並みですが、冬は相当寒いのでしよう、

地下鉄や地下道が発達している主要な場所は地下でつながっています。またビルスナビル発祥の地で、地ビールがたくさんあります。これらを楽しめるのが日本の居酒屋に相当するホスボダで、ジョッキ3、4杯にお腹いっぱい食事しても1人1、500円程度でとてもリーズナブルです。

もちろん学会にもちゃんと参加しました。初日は佐藤先生のポスター発表、2日目は佐藤先生のもう一つのポスター発表と自身の口演、質問の一つ意味わかりませんでしたけど。3日目は群馬からエントリーした後輩の口演を補助したほか、専門分野のfoot&ankleを中心に聴取してきました。そうそう、3日目の早朝には学会主催のチャリティ5kmランがあり、当然参加しました。早朝6時のスタートなのにランの部は52名もの参加があり、30位でした。いつも思いますが欧米のドクターはみんな速いです。新湯の堂前先生がウォーキング部門で優勝して、楽しいひと時でした。来年はスイスのジュネーブです！



日米手外科学会合同会議 2015

(ASSH&JSSH combined meeting 2015) 佐藤 潤香

3/29-4/1ハワイで行われた日米手外科学会合同会議に参加してまいりました。同会議は日米の手術科の交流を趣旨として三年に一回開催されており、今回は第6回目となります。ただし前回予定されていた2012年は東日本大震災の影響で中止となりましたので、今回は6年ぶりとなりました。リゾート感満載のハワイ(しかも日本人がよく行くオアフ島ではなくマウイ島)に学会で行く機会などそうそうあるものではないかもしれません。このチャンス逃すことなれと邪道な(?)考えもあり、なんとか演題を通すべく数少ない自分の持ちネタをアピールできるようなあれこれ工夫いたしました。結果、ポスター発表で拾ってもらえればと考えていたのになんと6分の口演で採用。本来喜ばしいことですが、こういう場に慣れていない自分は折角マウイに来たというのに、発表が終わるまで戦々恐々として過ごしたのは言うまでもありません。座長のDrが質問して下さった英語もよく理解できずごまかしてしまったり自分に次演者のアメリカ人が「Good presentation」と握手を求めてきてくれたのが嬉しかったです。(勿論リップサービスでしょうが...)ともあれふだんこつこつ集めてきたデータをこのような舞台上で発表できたのは協力的な患者さんとスタッフのおかげでありこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

さてマウイ島はオアフ島とは全くと言っていいほど雰囲気が違う落ち着いた欧米人向けのリゾートです。和食屋が氾濫するホノルルと違い日本人はほとんど見かけません。アメリカ本土の人たちにとってはいつか行ってみたい憧れのリゾート地だそう。物価の方も全米No.1です。(ただでさえ離島です。食材もガソリンもほとんど金がかかります)日本人旅行者はあちこち見て回りたい方が多いので不向きかも知れませんが、ゆっくりとした時間を過ごしたい方にはとても良い所です。今回の学会も折角来たのだから楽しもうよという事で会期中は朝早くプログラムが始まり昼の1-2時くらいにはお開き、皆さん家族を連れてきて午後は各々楽しんでおられました。とはいえ朝早くから会場の席さんしつかり勉強もされていたようです。



写真はホテルの近くラハイナという町の浄土宗寺院によった時のものです。昔は日本から移住したサトウキビ農園労働者が沢山いたよう。で住職も若い時だけのつもりで赴任したのが周囲から慰留されて一生住むことになったとお話されました。幸運にも寺院裏のビーチでアザラシが見られました。

新人紹介

介護課

小林 理緒
出身地：埼玉原加須市
まだ、不慣れなこともありご迷惑をお掛けしますが、皆さんに教えて頂きながら成長していきたいと思えます。

リハビリテーション科
瀬戸丸 綾

出身地：埼玉熊谷市
小学校から大学までバスケットボールを続けていました。先輩方の様な理学療法士になれるように一生懸命笑顔で頑張ります。

リハビリテーション科
伊藤 千菜美

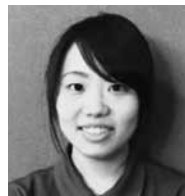
出身地：埼玉さいたま市
中学校ではソフトボール、高校では野球部のマネージャーをしていました。毎日元気に頑張っています！

リハビリテーション科
藤澤 智仁

出身地：埼玉原加須市
4月からリハビリテーション科に入職しました。早く頼りになる理学療法士になれるよう、精一杯頑張りますので、よろしくお願ひします。

リハビリテーション科
香坂 俊介

出身地：新潟県糸魚川市
今年からお世話になります香坂です。自分も早く周りの先生方の様に自立できるよう精一杯頑張りますので、よろしくお願ひします。



bjリーグファイナル

リハビリテーション科

森 幸紀

5月24日に有明コロシアムにてbjリーグの年間チャンピオンを決めるターキッシュエアラインズbjリーグファイナル2015が行われました。東地区からは秋田ノーザンハビネッツ、西地区からは浜松・東三河フェニックスがそれぞれの地区のプレイオフを勝ち抜いて決勝に進出しました。

浜松・秋田の試合は両チームともにシュートが決まらず1Qは12-10でスタートしました。2Qは秋田がリズムを作り25-33となり、前半は秋田のリードで折り返しました。後半になると一進一退の試合展開となり3Q終了時点では44-50となります。4Qの残り1分、浜松がとうとう同点に追いつき67-67となり、緊迫した試合は残り3秒で浜松がついに逆転し試合終了。71-69で浜松・東三河フェニックスがチャンピオンとなりました。

現在、日本にはNBLとbjリーグの2つのプロリーグがあり、問題になっっているのはご存知かと思えます。2016年10月より統合され、新リーグが開幕しようとしています。そのため、bjリーグ単独のファイナルは来年度が最後となってしまいます。とても楽しいですし、一見の価値はあります。ぜひ足を運んでみてください。



通所リハビリテーション 笑顔いっぱい リニューアル

生活相談員 大野 充博

通所リハビリテーション笑顔いっぱいが平成二十七年七月より、リニューアルオープンする運びとなりました。当法人には、「元氣いっぱい」と「笑顔いっぱい」の二か所の通所リハビリテーションを展開しております。これまでは、元氣いっぱいが大規模・笑顔いっぱいが通常規模と規模の違いが差異でしたがこの度のリニューアルによって、それぞれの施設の役割が明確化され、ご利用される方のニーズに合わせた選択が可能ないようにサービスの提供を目指しています。

近年、リハビリテーションや在宅介護というキーワードが注目されています。それらを希望している方が多いのも現状と言えます。それは、脳血管疾患などリハビリを必要とする疾患の増加や患者の若年化が影響していると考えられます。またそうしたことに加え、職場の定年制度の年齢の引き上げなどによる職場環境の整備による復職の可能性の拡大もリハビリ需要の増加に少なからず影響を与えていると考えます。

そういった中、介護保険でリハビリテーションを利用される方も多岐にわたり、これまでと同様のサービス提供では満足していただけない状況が想定され、今回のリニューアルを検討するに至りました。

当初より、短時間の通所リハビリテーションを希望されるお声があったこと、近隣にそのような社会資源が少なかったため、従来の施設でも短時間利用は実施していましたが、一貫したサービスの提供と、ニーズに細かくお応えできる体制を強化するためリニューアルに踏み切りました。これによって、近隣地域内には数少なくなった短時間利用の通所リハビリテーションサービ

スの拡充の一助となり、地域の方の社会復帰に貢献できればと考えます。

さて、「笑顔いっぱいリニューアル」の詳細については、

笑顔いっぱいサービスが午前と午後で分けた短時間通所リハビリサービスとなります。従来一日利用されていた際は、リハビリ（個別・集団）以外に、食事、入浴やレクリエーションなども行っていました。しかし、先ほど挙げた若年層の対象者や復職などゴールの設定レベルが従来の介護保険サービスの内容では賅いにくい方向などに向けたリハビリにさらに重きを置いたサービス提供体制となっております。そのため、リハビリ以外のサービスは最低限として、入浴、食事、レクリエーションは割愛しています。

短時間での通所リハビリテーションにおいて、送迎サービスを行っていない事業所もありますが、笑顔いっぱいの短時間サービスは送迎サービス（実施地域内に限る）も行っていますので、通所する際の交通手段にお困りの方も通っていただきやすいと思います。

また、個別リハビリテーションの充実を図ると共に、リハビリマシンを使用した自主トレーニングや、余暇時間を活用していただきやすいようにタブレット端末などの利用も含めた新しい形の機能改善・向上に向けた取り組みもお楽しみいただけるよう、体制を整えています。

それらによって、その方々の目標に向けた積極的なリハビリテーションを行い、目標到達し、リハビリが必要なくなるような状況を実現できるような体制を準備しているところです。

この度のリニューアルにおいて笑顔いっぱいをすでにご利用されていた方や、ご利用を検討されていた方、その関係者の方々などには多大なご迷惑をお掛けしておりますことをお詫び申し上げます。



「おやつ作りをしました」

笑顔いっぱいショートステイ 中島 順一

さる5月29日、笑顔いっぱいショートステイでは、3回目のおやつ作りを行いました。

前回のおやつ作り後、利用者様より「今度は草餅が食べたい」との、ご要望があったため、草餅風白玉だんごを作りました。

今回は、だんご丸めや盛り付け等、火を使わない工程はすべて利用者様主体で作って頂き、とても個性的な草餅風白玉だんごが、少々できてしまいましたが、皆様真剣に作って下さり、笑顔の絶えないとても楽しいおやつ作りが行えました。

作った草餅風白玉だんごは、10時のお茶の時間に皆様で、美味しく食べて頂きました。



—平成27年度 行事予定—

昼食バイキング・七夕会・納涼祭・敬老会・コスモス鑑賞ドライブ・運動会・クリスマス会・新年会等、計画しております。

これからも利用者様が「笑顔いっぱい」で「元氣いっぱい」な毎日を過ごしていただけるよう、より一層ケアの質を高めていき、利用者様に寄り添って日常生活を支えられるよう、スタッフ一同、頑張っていきたいと思っております。

第13回「コメディカル勉強会」

ステップアップ 北谷戸 春樹

さる6月11日、グリーンアリーナ行田にて、コメディカル勉強会を開催いたしました！

行田地域のケアマネージャー、地域包括支援センターの職員の方をお招きして、介護や医療に関わる勉強会をしようと会を発足し、早くも13回目を迎えました。

今回の主なテーマは、「平成27年度介護報酬改定 通所リハビリに関する変更内容」ということで、行田地域の通所リハビリ施設の方より、各施設の特徴や、改定後の新たな取り組みについてお話していただきました。当日は会場いっぱいにあふれるくらい大勢の方に参加していただきました。いただいた感想では、「一度にまとめて行田の各施設の特徴を知ることができてとても役立った。」という声が多かったです。

今後も「明日から役立つ勉強会」を合言葉に企画・運営をしていきたいと思います。



お料理もう一品 栄養・給食係

焼きなす浸し

■材料(4人分)

- ・なす …………… 3本
- ・サラダ油 …………… 大さじ1
- ・おろし生姜 …………… 小さじ1
- ・みょうが …………… 1個
- ・大葉 …………… 4枚
- (漬け汁)
- ・めんつゆ3倍濃縮… 大さじ3
- ・水 …………… 大さじ6
- ・おろし生姜 …………… 小さじ1

■作り方

- ①なすのへたを切り落とし1cm位の厚さに切る。
- ②フライパンに油を入れなすを炒める。なすに火が通ったら火を止める。
- ③漬け汁の調味料を混ぜ合わせ、なすを入れる。冷めたら冷蔵庫へ入れて冷やす。
- ④大葉、みょうがを千切りにする。
- ⑤冷えたなすを汁ごと器に入れ、大葉・みょうが・おろし生姜を飾る。



創作活動では主に、新聞の広告や牛乳パック、包装紙やお菓子の箱などの資源を再利用しています。普段なら捨ててしまうようなものでも工夫する



みなさま、石井クリニックの渡り廊下の作品をご覧になりましたでしょうか？
クリニックの受付からリハビリ室へと向かう階段の少し手前に展示してあるのをご覧になられた方も多いと思います。
実はこの作品、「元氣いっぱい」「笑顔いっぱい」デイケアの利用者のみなさまと創作活動として作ったものなのです。
利用者みなさままで協力して一つの作品を作ることもあれば、一人一つずつ作品を作ることもあります。
現在は、四季を感じられるようなポスター作りとして、梅雨の時期ということでアジサイを作っています。

石井クリニック賞
デイケアでの創作活動
作業療法士 李 陽秀
金子 縁

ひとつ例を紹介しましょう。
①牛乳パック(もしくは段ボール)を採寸して切り取り、箱の外枠、底面、蓋、中の仕切りを作りまします。
②①に使わなくなった洋服やハンカチなどの布を貼り付けます。
③蓋の取っ手として、ペトボトルキャップを使用し、②と同じように布を貼り付けます。
④ポンドや接着剤で組み立てて完成です。
いろいろな大きさや形にも出来ますので、簡単でかわいい仕上がりになりますよ。
これらの作品は、クリニックの景観を華やかに彩ってくれている以外にも地域の薬局さんの展示ブースに飾らせてもらったりしています。
みなさまも、ぜひ作ってみてはいかがでしょうか？



ことで小物入れやペン立て、壁飾りなどちょっとした作品や日常で使えるものも作ることが出来ます。

外来担当表

		月	火	水	木	金	土	日(9時~11時)
午前	一診	石井	野口	交代	野口	石井	交代	交代
	二診	佐藤	石井		佐藤	佐藤	交代	
午後	一診	野口	石井	交代	石井	野口		
	二診	佐藤	佐藤		野口	佐藤		

☆受付時間 月曜~土曜 午前 8:30~12:00 午後 15:00~18:00
※リハビリ(物療)は午後14:00から行っています。

☆休日 日曜 午前 9:00~11:00
土・日曜の午後/祝日 ☆診療は手術により適宜変更することがあります。
医療法人 葦の会 石井クリニック TEL 048-555-3519

編集後記

梅雨になりジメジメとした日々が続いていますが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。気温も高く日差しが辛い日もありますが、ニュースを見ていると今年は冷夏になるようです。冷夏といっても暑いことには変わりないので、熱中症など気をつけてお過ごし下さい。